

## 汚染水の海洋投棄の前提の多核種除去装置（ALPS）のでたらめな管理 核汚染吸着フィルターの破損（24/25）を隠蔽し再発防止せず！

9月13日東京電力は、福島第一原発の汚染水を処理する多核種除去設備で核種ごとに分離した核汚染物から排気される放射性物質を吸着するガラス繊維でできたフィルターが破損していたことを公表した。実に25個のうちで24個に破損があった。これと同じ破損は2年前にも発生しており、その時は公表せず部品を交換し、再発防止策も講じていなかった。フィルターは時間とともに目詰まりが起こるので一定期間でチェックするはずなのに、ほとんどが破損するまで放置されていたのは異様である。

今回については保管容器のガスの排出時に、想定以上の強い圧力がかかるなどして、フィルターが破損したと説明しているが、「想定以上の圧力」が発生した原因は特定されていない。

この事故の影響でALPSが約1週間停止し、破損したフィルターの周辺で放射能汚染は確認されたが、作業員への影響はなかったという。



福島原発の汚染タンク

### 規制委 島根原発2号機の再稼働「適合」決定

原子力規制委は9月15日に、島根原発2号機の安全対策が新規基準に適合すると認める審査書を正式決定した。島根2号機は地元の同意を得れば来年度以降に再稼働の可能性がある。島根原発は県庁所在地にあり、30<sup>キロ</sup>圏に45万人が居住し、避難の問題が残っている。

### 植民地支配と住民の虐待のシンボル 「泰緬鉄道」の記念行事を靖国神社で開催

ビルマ（現在のミャンマー）で日本軍が、捕虜と現地住民の強制労働で建設した「泰緬鉄道」は「枕木1本人ひとり」の「死の鉄道」と言われ、8万人近くが死亡した。現地では連合軍と住民が「日本の戦争犯罪」を伝えている。ところが日本では反省するのではなく、機関車の汽笛を鳴らして建設を讃える式典をするという。



当時の蒸気機関車

### 報告 「遺骨土砂問題」意見書採択運動の最新報告 (2021/10/1)

現在国は、沖縄戦戦没者遺族の遺骨が染み込んだ土砂を辺野古新基地建設に使用しようとしている。この「遺骨土砂問題」に抗議する意見書を地方議会から上げる動きが全国で広がっている。大阪府内ではこれまで泉大津市・茨木市・大阪市・貝塚市・河南町・堺市・四條畷市・吹田市・太子町・高石市の10自治体で採択された。沖縄県外でも、秋田から福岡まで、40を超える自治体で採択済みだ。

特に大阪市・堺市では、政令指定都市での全会一致採択が実現した。これは都道府県議会での全会一致採択と実質的に同等な影響力を持つはずで、この先ロビイングする際の重要な説得材料になる。

遺骨収集ボランティア・具志堅隆松さんは、「9月議会は問題を知ってもらう段階。12月議会・2月議会でも運動を続けて欲しい」とおっしゃっている。「遺骨土砂問題」に向き合う中で、日本の戦後責任・植民地責任の問題や、構造的沖縄差別そのものへの理解も深まる。この問題にこだわる意義はあるだろう。

全ての自治体での運動が順風満帆だった訳ではない。そもそも具志堅さんが採択を求める意見書は、辺野古や米軍基地には言及せず、「遺骨を用いた埋め立ては許せない」という人道上の問題と、「国の埋め立て計画は国会で全会一致成立した戦没者遺骨収集推進法に矛盾している」という問題のみに的を絞っている。全会一致採択されない方がおかしいが、「辺野古新基地建設反対」という政治的思惑のため遺骨の問題を利用している」などという理由で反対される場合もあった。

具志堅さんが7月に全国の市町村・都道府県議会に送った要望書や、大阪市・堺市などでの採択事例すら知

らない議員もいた。枚方市は、既にこの意見書を採択した名護市の友好都市であるのに、否決に終わった。本会議で否決されると、同一年度内に同一内容の意見書を出せなくなるので、ロビイングの強行が逆効果になる場合もある。

成功事例のみならず、失敗・停滞事例からも教訓を引き出し、特に保守会派を説得するための方法を模索する必要がある。全国でこの問題に取り組む市民・議員ら中心にオンライン会議を開くなどし、情報共有することが肝要だ。

摂津市・柏原市などでは市議選直後の10月議会での採択を目指した運動が始まったし、豊中市・高槻市・島本町・能勢町等では12月議会をも射程に入れた粘り強い運動が続く。「遺骨土砂問題」意見書を採択した所では、それを辺野古新基地建設自体を止める意見書の採択に繋げるための取り組みも必要だ。

自民党総裁選では候補者全員が具志堅さんの公開質問状を無視し、辺野古新基地建設推進を明言した。自公政権が続く限り、構造的沖縄差別は終わらない。「人道上許せない工事に、国は総額2.5兆円を浪費している」と訴えれば、衆院選に絡めて「遺骨土砂問題」を問題提起出来る。

構造的差別に曝される沖縄では、国政の問題が最も早く、鋭敏に露呈する。「沖縄問題」などと等閑視していれば、ヤマトの市民全員の生活がいずれ犠牲にされる。政権交代をかけた衆院選を前に、沖縄で起こる問題に対するヤマトの市民の認知・応答を促すことの重要度は高まり続けている。

西尾慧吾（遺骨で基地を作るな！緊急アクション）

## 南北戦争の南軍リー将軍像を撤去 (朝日 8/26)

米バージニア州政府は、南北戦争で、奴隷制や人種差別に関わった将軍の像を撤去する動きが進んでいる。知事が昨年、「現代の価値観にそぐわない」として撤去の方針を決定し、反対派が差し止めを請求していたが、裁判所が2日に訴えを避けた。



## アフガンでペシャワール会活動再開 (朝日 9/10)

中村哲さんの遺志を継いで、アフガニスタンで医療や灌漑、農業支援に取り組む NGO「ペシャワール会」は9月9日に、休止していた農業支援を再開した。灌漑事業も今後再開する予定である。現地での事業は徐々に再開されているが、米国による資産凍結の影響で預金の引き出しに制約があり、現地の職員や作業員への給料の支払いが滞っていると、危機感を示した。

## 米軍カブール誤爆を認める (朝日 9/19)

米軍が8月29日に実施した無人機による空爆が、民間人への誤爆であったことが判明し、米軍は謝罪した。子どもを含む10人全員が IS とは何の関係もない市民であった。これまでも米軍の空爆による誤爆や巻き添えの死者は多く、アフガン国内で反米感情を高めてきた。

## 黒い雨 救済いまだ見えず (朝日 9/15、20)

ヒロシマへの原爆投下後に降った「黒い雨」被害者の認定と被爆者手帳の支給が判決され、菅首相が原告以外の救済も早急にすると談話を出してから2か月。多くの被害者から相談が提出されているのに、認定は進んでいない。政府は過去の例の確認や判決を精査するだけで事業を進めていない。広島県と市は早急に検討し、来年当初には新基準で手帳を交付することを求めた。

## 東京オリパラ、入院患者数は実は5倍 (朝日 9/29)

組織委員会は大会開催中は、選手や関係者の入院数が最大で2人であったと発表していたが、それは全くの嘘で、実は入院患者数が5人でなく25人、最大数は8月31日に11人であったと発表した。組織委員会のごまかし体質と隠蔽は、食品ロスの問題、予備品の廃棄問題などに広がり、次は財政負担の隠蔽が予想される。

## 裁判案内 10/6 関電マネー不正還流裁判

関電の役員が原発工場の不正発注などで金品総額3億7千万円を受け取っていた事件。さらに役員報酬の闇補填問題などについて、会社側の損害賠償請求と、株主代表訴訟が連結して審理される。前代未聞の裁判である。

日時: 10月6日(水)13時:ミニ集会:14時:口頭弁論  
場所:大阪地裁 報告集会:堂島ビル9階会議室

## 案内 12/5 老朽原発そのまま廃炉!大集会おおさか



再稼働した美浜3号機も、特重施設の完成が期限に間に合わず、本年10月下旬には停止となり、関電は「2023年末までに使用済核燃料の中間貯蔵地を決められなければ、老朽原発を停止する」としている。老朽原発停止を突破口に原発全廃に向かって大きく前進していこう!

## 報告 原発いらナイトin宝塚 (9・24)

月末の最終金曜日に、宝塚の阪急-JR間の陸橋で7~8人によって「原発いらナイトin宝塚」のチラシが、サキソフォンの生演奏を背景に配布されている。9月24日の第102回目はトリチウム汚染水海洋投棄反対を主張するチラシを約120枚配布した。予定より早く終了し、次回は150枚配布予定となった。



## 原発ゴミを海外へ

経産省は、放射性廃物の規制を緩和して、海外で処分するため「輸出」を認めることを検討している。原発の廃炉のためだけでなく、廃棄物が積みあがり運転の継続が困難となっていることに対する対策の第一歩である。



## 特集 コロナ感染者の約48%が後遺症を訴えている (東京都世田谷区)

東京都世田谷区は、新型コロナに感染した区民や区内病院に入院した人の後遺症に関するアンケート(3710件)の結果を公表した。その結果、様々な後遺症の症状や退院後の不安などに苦しむ姿が明らかになった。

### 回答者の48%が後遺症に悩むと回答

年代別には、30~50代で半数以上が後遺症を訴えた。1786人の主な症状別では、嗅覚障害(971件)。全身の倦怠感(893件)、味覚(801件)と続いた。

療養で困ったことについては、体調や健康面への不安が(1270件)、家族感染の不安(1169件)、療養生活での不安(1033件)も多かった。他に、「生活不安」、「うわさの不安」、「風評被害・誹謗・中傷」などについての不安を訴える声が目立った。世田谷区では相談窓口を開設しているが、全国的には病院で後遺症対応するところが少なく、コロナ感染回復者の不安を広めている。

## 大阪府でも後遺症相談の内容を発表

大阪府は9月9日の新型コロナ対策本部で、後遺症の相談窓口にあった相談208件の症状別内容を公表した。下欄にあるように、倦怠感、嗅覚障害、味覚障害、脱毛、呼吸苦(複数回答を含む)が報告されている。年代別の訴えなども東京とよく似た傾向であった。今までの相談件数が208件に対し8月は344件あり、後遺症に悩む感染者数は増加傾向である。

